

尼崎市の環境啓発事業

吉岡辰郎*

1. はじめに

尼崎市は、兵庫県の南東部に位置し、西の武庫川、東の猪名川・神崎川等との間の広大な三角州上に立地している。人口は約44万6千人（H27.8現在）で、市内全域が市街化区域にあたる。

かつて日本の高度経済成長とともに、阪神工業地帯の中核として発展したが、一方で大気汚染や水質汚濁等深刻な公害問題に直面した。しかし、市民、事業者、行政の連携と粘り強い取組により、現在、市内の環境は大きく改善されている。これらの歴史や経験が、市民・事業者の高い環境意識に引き継がれており、平成25年3月には低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて先駆的な取り組みにチャレンジする都市として国から「環境モデル都市」に選定された。

現在は、環境と経済の共生を図る「尼崎版グリーンニューディール」に取り組むことにより、コンパクトで持続可能なまちの実現を目指している。

2. 武庫川とのかかわり

本市西側は武庫川が運ぶ土砂が堆積してできた沖積平野であり、古くから生活の一部として武庫川の水が利用されてきた。市内北端には武庫川から農業用水を取り入れる六つの樋門を武庫川改修時に一つにまとめた六樋（ろくひ）があり、一級河川の庄下川等の河川のほか用水路等、市内の広範囲に武庫川の水が流れている。

市内北西部の宮の北団地や西武庫公園では市民等による武庫川の清流を取り入れた蛍の生育活動が盛んで、毎年5月下旬から6月上旬頃には水路周辺を飛び交うゲンジボタルをみることができる。

また、かつて旧西国街道の武庫川の渡し場があった甲武橋北の武庫川河川敷は、一時はゴミの不法投棄などで荒れ果てていたが、地元住民を中心とした市民グループ等、多くのボランティアの努力により、見事なコスモス園に生まれ変わった（写真1）。10月下旬～11月下旬にかけて、550万本のコスモスが見られ、阪神間の秋の花の名所として定着し、毎年たくさんの方が見物に訪れている。



写真1 武庫川河川敷のコスモス園

3. あまがさき環境オープンカレッジ

本市の環境啓発事業は「あまがさき環境オープンカレッジ」を中心に行われている。あまがさき環境オープンカレッジとは、尼崎を愛し環境を考える人たちが出会い、ともに学び、実践へのきっかけをつくる学びの場で、平成22年度に開校し、市民・学校・事業者・市で構成される実行委員会により運営されており、身近な自然、地球環境、暮らしやまちづくりなど環境に関連する様々な環境学習講座やイベントを企画・実施している。

平成26年4月からは、実行委員会をNPO法人化し、尼崎市提案型事業委託制度の第一弾として、市民の手による主体的な運営が行われている。

あまがさき環境オープンカレッジ（以下、「AOCE」という）では市民を対象に年間約20講座の環境啓発講座を主催しており、武庫川をフィールドとした活動も行っている。平成26年度には、市民の方々と一緒に作成した環境マップ、「エコあまっぷ」を片手に、前述の六樋や武庫川河川敷のコスモス園などを巡る武庫北地区のまち歩きを行ったほか、平成27年度には武庫川づくりと流域連携を進める会と連携し、「武庫川をもっと知ろう！」と題した全4回の講座を実施しており、市民に武庫川についてより親しんでもらえるような啓発活動を行っている。

*尼崎市経済環境局環境部環境創造課 Tatsuro YOSHIOKA



写真2 エコあまフェスタ 2015

また、毎年6月の環境月間には、AOCEと尼崎市の主催で、市民がわかりやすく環境について学ぶことができる「エコあまフェスタ」を開催している（写真2）。今年で6回目を迎え、市内の環境活動団体が日頃の活動を紹介したり、環境について体験できるブースやステージプログラムがあり、平成27年度は約2,800人の参加者があった。

さらに今年度は、新たに環境活動に携わる市民を増やすことを目的に、環境活動に興味がある方を対象とした、きっかけ作りや仲間作りを支援する講座を行う予定である。

4. 環境学習・活動の拠点施設

環境学習・活動の拠点施設も市民の手で運営されている。平成26年4月に阪急塚口駅前に開設された環境学習・活動の拠点施設「あまがさき環境オープンカレッジ」の管理・運営も市民等が中心のNPO法人あまがさき環境オープンカレッジが行っている（写真3）。常駐職員が市民目線で、市民の環境学習・活動に関する相談への対応や支援、環境図書や活動支援用品の貸出等を行っており、土、日も開館している。定期的に場を活用した環境イベントも開催するなど、市民が主体となり、より市民が足を運びやすい環境を整えたところ、平成26年度は年間約4,600人の来館者があった。

5. その他の取り組み



写真3 環境学習・活動の拠点施設「あまがさき環境オープンカレッジ」

その他の取り組みとしては、尼崎の身近な自然の再発見を目的とし、平成元年から27年間続いている「尼崎の身近な自然写真展」や、市内で活動している環境団体のスキルアップおよび団体同士のネットワークの構築を目的とした「環境活動団体ミーティング」等がある。

前者は毎年50人前後の方から、約200点の市内の環境を撮影した写真をご応募いただき、その中から選んだ12作品を用いて作成したカレンダーを無料配布している。

後者については今年度より始まった事業で、11月には助成資金セミナーを開催する予定である。11月のセミナーは市外の団体も参加可能なので、よろしければ是非ご参加いただきたい。

6. おわりに

本市は平成28年に市制100周年を迎える。

本市の環境啓発事業は市民の皆様等との2人3脚で行われてきた。今後も、皆様と共に、よりよい尼崎の環境を目指し、環境啓発を進めてまいりたい。